

2025年度 埼玉医科大学短期大学
看護学科 総合型選抜Ⅱ期
小論文

無断転載・複製を禁ず

次の文章は、坂東眞理子著「 幸せの作法 働く女性に贈る 61 のヒント 」の「はじめに」と「おわりに」との抜粋です。それぞれの文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「はじめに」

あなたにとって、「幸福」とはどんなものでしょうか。

幸せで豊かな家庭を築くこと。

好きなことを仕事にして生活の糧を得ること。

子供の頃からの夢だった職業に就き成功すること。

有名になって大きな富を得ること。

力の限り努力して会社で高い地位につくこと。

貧しくとも愛する男性と生涯をともにすること。

子供たちの健やかな成長を見守ること。

愛する家族に囲まれて笑って最期のときを迎えること。

……どれも素晴らしいことです。

しかし「幸福」を考えるときに、まず忘れてはならないのは「幸福とは非常に主観的なものだ」ということ。そしてもうひとつ、「幸運」を「幸福」と勘違いしてはいけないということです。

たとえば、「たいした努力もせず、忙しい思いもせず、素敵な人に出会って愛され、子供に恵まれる」という「幸運」を「幸福」と勘違いしてはいないでしょうか。中には、そういう女性もいるかもしれませんが。しかし、これはただの「偶然」というものです。その女性の話をよく聞いてみたら、「幸運」でさえないかもしれません。

どうも女性は、「幸福」よりも「幸運」をうらやましがるようにです。幸福がとても主観的なものだとなんとなくわかってはいても、「ラッキー」に見える人を、「あの人は幸せよねえ」とうらやんでしまうのです。

この気持ちは捨てたほうがいいでしょう。

自分の持っているものを喜ばず、持っていないものを欲しがってはいは、決して幸せにはなりません。

「幸せ」とは、自分で少しずつつくり上げていくものです。そうすることでしか手に入らないものなのです。「幸運」が落ちていないかと周囲を見回し、落ちていない不運を嘆き、「私は不幸せだ」とうつむくほど、不幸なことはありません。

「おわりに」

今の日本には、起業家や成績全国ナンバーワンを誇るセールスウーマンなどの、大輪の花火のように華やかでまばゆい働き方をしている人の情報があふれています。でもほとんどの女性は、毎日コツコツと地道に働いています。そういう女性はなかなか目立たず評価もされにくく、幸せの実感も沸きにくい。ふつうに働く「幸せのロールモデル」がなく、もしかしたら本当の自分が別にいるのではないかと、自分探しをしてしまうのも無理のないことです。「ふつうの幸せ」を手に入れるのが、実は一番難しい。今は、そんな時代なのかもしれません。

(坂東眞理子『幸せの作法 働く女性に贈る 61 のヒント』より。一部改変)

問1 「「幸せ」とは、自分で少しずつつくり上げていくものです。とあるが、これについて、あなたはどうか。150字以内で述べよ。

問2 「「ふつうの幸せ」を手に入れるのが、実は一番難しい。とあるが、今の時代、どうして「ふつうの幸せ」を手に入れるのが難しいと著者は考えるのか。また、その考えに対して、あなたはどうか、身近な人または見聞等を例にあげて、あわせて300字以内で述べよ。

無断転載・複製を禁ず